

フレームワークの概要及びセカンドパーティ・オピニオン 三井住友フィナンシャル・グループ /三井住友銀行 グリーンボンドフレームワーク

評価概要

サステナリティクスは、三井住友フィナンシャル・グループ（SMFG）及び／又は三井住友銀行（SMBC）のグリーンボンドフレームワークは信頼性及び環境改善効果を有し、グリーンボンド原則 2018 の 4 つの要件に適合しているとの意見を表明します。サステナリティクスが、この評価に際して考慮したのは以下の要素です。



調達資金の使途 資金使途の対象となる適格カテゴリー（再生可能エネルギー、クリーンな運輸、エネルギー効率、グリーンビルディング、汚染の防止と管理）は、グリーンボンド原則 2018 に合致しています。サステナリティクスは、適格プロジェクトが環境改善効果をもたらす、国際連合が定める持続可能な開発目標（SDGs）のうち、特に「目標 3」、「目標 7」、「目標 9」、「目標 11」を推進するものと考えます。



プロジェクトの評価及び選定 適格プロジェクトは SMBC のストラクチャード・ファイナンス営業部が適格クライテリアに基づいて評価・選定し、決定は SMFG のコーポレートトレジャリー室と SMBC の市場営業統括部が行います。これはマーケット・スタンダードに合致していると考えます。



調達資金の管理 グリーンボンドで調達された資金は、調達資金額が SMFG/SMBC の適格グリーンプロジェクト・クライテリアを満たした資産への充当金額と同額であることを確認する社内管理システムを通じて追跡管理されます。これはマーケット・スタンダードに合致していると考えます。



レポートニング SMFG/SMBC は自社のウェブサイト上で、調達資金の年間の充当状況を報告し、調達資金が適格プロジェクト又は適格金融商品に投資されていることを確認する経営陣のアサーションを受ける予定です。サステナリティクスは、経営陣のアサーションを受けることはマーケット・ベスト・プラクティスに合致していると考えます。インパクト・レポートニングに関しては、SMFG/SMBC は CO₂ 排出量(t 換算)やエネルギー消費の削減量(kwh)、廃棄物のリサイクル量(t)の環境影響指標のレポートニングを約束しています。これはマーケット・スタンダードに合致していると考えます。

評価日 2018 年 11 月 21 日

発行体所在地 日本（東京）

レポートセクション

はじめに.....	2
発行体の概要.....	2
サステナリティクスのオピニオン.....	6
参考資料.....	11

本件に関するお問い合わせは、以下の Sustainable Finance Solutions プロジェクト担当チームまでご連絡願います。

Wakako Mizuta（東京）
Project Manager
wakako.mizuta@sustainalytics.com
(+81) 3 4510 7979

Trisha Taneja（トロント）
Product Manager
trisha.taneja@sustainalytics.com
(+1) 647 317 3695

日本のグリーンボンドガイドライン 2017 年版に適合

サステナリティクスは、SMFG/SMBC のグリーンボンドフレームワークが ICMA グリーンボンド原則 2018 に適合しているとの意見を表明します。さらに、日本のグリーンボンドガイドライン 2017 年版では、信頼できるグリーンボンドを発行するために発行体が「すべき」項目を示すと共に、「望ましい」項目についても明確にしていますが、サステナリティクスは、SMFG/SMBC のグリーンボンドフレームワークと日本のグリーンボンドガイドラインで規定された要件の適合性も評価しています。

はじめに

三井住友フィナンシャル・グループ（以下、「SMFG」といいます。）とその完全子会社である三井住友銀行（以下、「SMBC」といいます。）は、グリーンボンドフレームワーク（「フレームワーク」）を策定し、SMFGとSMBCは、それに従ってグリーンボンドを発行します。グリーンボンドの発行で調達した資金は、再生可能エネルギー、エネルギー効率、グリーンビルディング、クリーンな運輸、汚染の防止と管理に関連した支出に対するファイナンス又はリファイナンスに充当されます。

SMFG/SMBCはサステナリティクスとの間で、グリーンボンドフレームワークを審査し、同グリーンボンドと国際資本市場協会（「ICMA」）によるグリーンボンド原則 2018¹との適合性及びフレームワークの環境面での貢献について、セカンドパーティ・オピニオンを提供する委託契約を締結しています。

サステナリティクスは、この委託契約の一環として、SMFG/SMBCのグリーンボンドにおける調達資金の管理やレポートだけでなく、両社の事業プロセス及び想定される資金使途のサステナビリティ（持続可能性）への影響を理解するため、両社のコーポレート・サステナビリティ部門及び財務部門の様々なメンバーと議論しました。さらにサステナリティクスは、関連する公表文書及び非公開情報の審査も行いました。

この意見書は、SMFG/SMBCのグリーンボンドフレームワークの概要と当該グリーンボンドフレームワークに対するサステナリティクスのオピニオンの2つのセクションで構成されています。

発行体の概要

SMFGは日本の三大銀行グループの一つであるSMBCグループの持株会社であり、SMBCはその銀行業務の中核を担っています。SMFGは国内外において幅広い金融サービスを展開しており、「グローバルなシステム上重要な銀行（G-SIB）」に認定されています。SMBCグループは事業活動の実行において、（1）顧客、（2）株主・市場、（3）環境・社会、（4）従業員により高い付加価値を提供することを通じて、社会全体の持続可能な発展に貢献していくことを目指しています。

SMBCグループは、企業の社会的責任（CSR）をグループの事業戦略の基盤に位置づけており、CSR活動の中核として特に「環境」、「次世代」、「コミュニティ」に焦点を当てています。SMBCグループの環境ビジネス活動の3つの柱は、i) 環境ビジネスの推進、ii) 環境リスクの管理、iii) 環境負荷の低減です。

上記の環境イニシアチブ i) と ii) に関して、SMBCは2005年にエクセター原則を採択し、それ以降、大規模なプロジェクトファイナンスから生じる環境及び社会リスクを評価するための社内手続きを定めています。この環境・社会リスクマネジメントのフレームワークを踏まえ、環境ビジネスローンや、種類や地域が多様な再生可能エネルギープロジェクトに対する融資を含む、プロジェクトファイナンス関連融資を実施しています。SMBCは、日本の銀行として初めて名誉ある2013年「Sustainable Bank of the Year（豪亜地区銀行部門）」を受賞しました。

グループの環境への取り組みを加速させるため、SMBCは2015年10月に日本の民間金融機関としては初めてとなるグリーンボンド（米ドル建て）を発行しました。その後、2017年にSMFGが日本の環境省が策定したグリーンボンドガイドライン2017年版に準拠した初めてのグリーンボンドを発行しました。SMBCグループの環境に配慮した投融資へのコミットメントは、今後もグリーンボンドの発行を継続するSMBCグループの意向に反映されています。適格グリーンプロジェクトのクライテリアは、以下のフレームワークの概要のセクションで説明されています。

¹ ICMA グリーンボンド原則 2018 <https://www.icmagroup.org/green-social-and-sustainability-bonds/green-bond-principles-gbp/>

フレームワークの概要

グリーンボンド発行を目的として、SMFG と SMBC は「グリーンボンド原則 2018」が定める 4 つの要件（調達資金の使途、プロジェクトの評価・選定のプロセス、調達資金の管理、レポート）に適合するフレームワークを以下の通り策定しました。フレームワークは SMFG と SMBC に帰属します。以下はその概要を示すものです。

調達資金の使途

グリーンボンドで調達された資金は、以下の適格クライテリアのいずれかを満たす資金のファイナンス又はリファイナンスに充当される予定です。

適格クライテリア

SMFG がグリーンボンドの発行体となる場合、SMFG はグリーンボンドの発行によって得られた調達資金と同額を SMBC に対してグループ内ローンとして融資します。SMFG からのグリーンボンドによる調達資金の受け手として、又は SMBC 自体がグリーンボンドの発行体となった場合は発行主体として、SMBC は調達資金と同額の全部又は一部を、以下で特定した内部の投資クライテリアを満たす既存・新規の環境関連プロジェクト（以下、「適格グリーンプロジェクト」）に対するファイナンスに充当します。

「適格グリーンプロジェクト」は下記 i) 、 ii) 、 iii) の条件全てを満たすものです。

i) 以下のプロジェクトカテゴリー (a) から (e) の少なくとも一つ以上に該当していること。

a. **再生可能エネルギー**

太陽光、風力、地熱、バイオマス（持続可能な原料又は廃棄物に限る）、及び小規模水力（発電容量が 25MW 以下）の再生可能エネルギーの発電又は送電施設の開発、建設、及び運営事業。

b. **エネルギー効率**

LED 照明や高効率 HVAC（暖房、換気及び空調）、建築断熱材、エネルギー使用量のコントロールシステムを含む（ただし、これらに限らない）省エネ設備に関する事業。重複を避けるため、以下のカテゴリー (c) に該当するプロジェクトは、カテゴリー (b) から除外される。

c. **グリーンビルディング**

「LEED（エネルギーと環境デザインのリーダーシップ）」、「BREEAM（英国建築研究所建築物性能評価制度）」、「CASBEE 不動産評価認証（建築環境総合性能評価システム）」などの地域、国家又は国際的に認知されたグリーンビルディングの第三者認証において、「LEED Gold」、「BREEAM Excellent」、「CASBEE A Level」以上の評価を得た新たな建物の建設又は既存建物の修繕に係る事業。

d. **クリーンな運輸**

クリーンエネルギー車（電気自動車及びそれを支えるインフラを含む）への移行、及び公共交通機関（鉄道輸送、自転車、その他の非自動車輸送の改善を含む）の開発、運営及び更新を支援する事業。

e. **汚染の防止と管理**

廃棄物のリサイクルや廃棄物処理発電等の施設の開発、建設および運営に関連する事業。

ii) エクエーター原則における評価が、カテゴリー B 又はカテゴリー C に分類されること。

iii) SMBC が、(a) 該当するグリーンボンドの発行日から遡って 24 カ月以内、又は (b) グリーンボンド発行以降かつ当該グリーンボンドの償還日以前に、融資することに同意した既存又は新規のプロジェクト。

除外クライテリア

明確化のため、以下は SMFG/SMBC のグリーンボンドフレームワークから除外されることを明記します。化石燃料資産、化石燃料を利用した輸送機関/インフラ、主として化石燃料を輸送するインフラ及び輸送機関、防衛及び安全保障、パーム油、木材パルプ、原子力発電、石炭火力発電、並びに全ての鉱業及びタバコセクター。

プロジェクトの評価及び選定のプロセス

プロジェクトの選定における適格及び除外クライテリアの適用

SMFG のコーポレートトレジャリー室と SMBC の市場営業統括部は、SMFG のサステナビリティ推進室と協働し、環境分野で豊富な経験と知識を有するグループのシンクタンク子会社である日本総合研究所 (JRI) のサポートを得て、上記のプロジェクトカテゴリー (a) から (e) を含む適格グリーンプロジェクトのクライテリアを策定しました。SMFG がグリーンボンドの発行体となった場合、SMFG のコーポレートトレジャリー室がグリーンボンドの発行による調達資金を SMBC に対してグループ内ローンとして融資します。SMBC のストラクチャード・ファイナンス営業部は、クライテリアを満たすプロジェクトを選定し、SMFG のコーポレートトレジャリー室と SMBC の市場営業統括部がグリーンボンドの適格プロジェクトを決定します。グリーンボンドで調達された資金は、選定された適格プロジェクトに充当されます。

環境目標

SMBC グループは、CSR を事業戦略に取り入れることを表明し²、環境、次世代、コミュニティの 3 項目を、重要課題に特定しています³。環境への取り組みについては、グループ全体の環境方針⁴で地球環境保全に焦点を当て、持続可能な社会への貢献を目指しています。当該環境方針は以下の 8 つの柱の中でコミットメントを展開しています。1) 環境に配慮した商品、情報、サービスの推進、2) 環境リスクの低減、3) 資源とエネルギーの節約及び廃棄物の削減、4) 環境関連法令の遵守、5) 環境関連情報の開示、6) 従業員エンゲージメント、7) 各年度の目的と目標の設定、8) 自社ウェブサイトでの環境ポリシーの開示。環境方針を実現するため、SMBC グループは環境ビジネスの促進など環境に対し優先度高く取り組んでいます。SMFG/SMBC のグリーンボンドフレームワークは、環境方針の第 1 の柱に貢献するものと言えます。

環境リスク、社会リスクを低減するためのプロセス

各プロジェクトファイナンスは SMBC のストラクチャード・ファイナンス営業部の信用評価を受けます。SMBC のストラクチャード・ファイナンス営業部はまた、「環境スクリーニングフォーム」を作成し、SMBC の国際環境室でさらに検証されます。この部署は関連するプロジェクトの環境及び社会リスクを評価し、エクエーター原則に従ってプロジェクトをカテゴリー別に分類します。

各プロジェクトファイナンスの国際環境室によるレビューは意思決定プロセスで重要な役割を担っています。レビューに基づいて、融資契約におけるコベナンツには環境面や社会面での検討事項が含まれ、ローン期間中はコンプライアンスのモニタリングが行われます。プロジェクトが要求された環境・社会指標の測定基準を満たさなかった場合、SMBC は融資銀行 (シンジケート団) として改善を求めます。

調達資金の管理

SMBC グループは、グリーンボンドによる調達資金が上記で定義された適格グリーンプロジェクトに充当されることをモニタリングし確実なものにするためのシステムを確立・実施しています。

グリーンボンドによる調達資金と同額が、SMFG と SMBC の適格グリーンプロジェクトのクライテリアを満たす資産に充当されたことが記録されます。調達した資金の全額が適格グリーンプロジェクトに充当されるまで、未充当資金はオーバーナイト取引や他の短期金融商品に投資する予定です。売却、繰上返済、分割償還又はその他の理由により不適格となったプロジェクトに充当されていたグリーンボンドによる調達資金は、他の適格グリーンプロジェクトに再度充当するものとします。

また、グリーンボンドの元本と利息の支払いは SMFG/SMBC の一般資金から行われ、適格グリーンプロジェクトのパフォーマンスに直接左右されることはありません。

²SMBC グループにおける CSR <https://www.smfg.co.jp/responsibility/smfgcsr/>

³SMBC グループの重点課題と SDGs への取組 <https://www.smfg.co.jp/responsibility/issue/>

⁴事業と統合された環境マネジメントの推進 <https://www.smfg.co.jp/responsibility/issue/environment/management/>

レポート

資金充当状況レポート

関連グリーンボンドが残存する間、SMFG/SMBC はグリーンボンドによる調達資金の充当状況に関する情報を専用ウェブサイトに公表し、閲覧可能な状態に維持します。当該情報は全額が充当されるまで少なくとも年1回、また、状況の変化が生じた場合には適時更新されます。この情報には以下の内容を含みます。

- 融資を受けた適格グリーンプロジェクト、融資残高及び融資の実行日などの詳細を含む、適格グリーンプロジェクトの調達資金の充当状況、及び
- グリーンボンドによる調達資金が、条件を満たす適格グリーンプロジェクト又はオーバーナイト取引やその他の短期金融商品に投資されることを示す経営陣のアサーション

インパクト・レポート

SMFG/SMBC は、融資を行った適格グリーンプロジェクトの環境への影響に関する情報と評価を専用ウェブサイトに年1回掲載します。SMFG/SMBC は、プロジェクトのカテゴリに応じて、CO₂ 排出量(t 換算)やエネルギー消費の削減量(kwh)、廃棄物のリサイクル量(t)の環境影響指標インパクトのレポートを約束しています。融資を行った適格グリーンプロジェクトの環境への影響は、レポートの際に全体で集計・計算されます。これらの環境に対する影響は JRI のサポートを得て計算されます。

コンプライアンスレビュー

SMFG/SMBC はグリーンボンドの発行から1年以内に、グリーンボンドフレームワークの遵守状況を評価するため、グリーンボンドによって調達された資金の融資状況の審査をサステナリティクスに委託する予定です。この審査は、発行体がグリーンボンドで調達する資金の全額が充当されるまで毎年実施されます。SMFG/SMBC が自社のウェブサイトで公開する審査報告書はサステナリティクスが作成する予定です。毎年の審査によって万一、SMFG/SMBC のグリーンボンドフレームワークに準拠しない活動に調達資金が充当されていることが特定された場合、SMFG/SMBC はそれに対応する金額をグリーンボンドフレームワークに準拠する別の融資活動に充当する予定です。

サステナビリティクスのオピニオン

セクション1：三井住友フィナンシャル・グループ／三井住友銀行のグリーンボンドフレームワークへのサステナビリティクスのオピニオン

概要

サステナビリティクスは、SMFG／SMBC のグリーンボンドフレームワークが信頼性及び環境改善効果を有し、グリーンボンド原則 2018 の 4 つの要件に適合しているとの意見を表明します。サステナビリティクスは、三井住友フィナンシャル・グループのグリーンボンドフレームワークにおける以下の要素を重要な点として考慮しました。

- 調達資金の用途
 - 再生可能エネルギー、クリーンな運輸、エネルギー効率、グリーンビルディング、汚染の防止と管理は、グリーンボンド原則における環境改善効果を有するプロジェクトカテゴリーとして認定されています。
 - SMFG／SMBC は、水力発電プロジェクトに対して調達資金を充当する場合は発電容量が 25 メガワット以下の小規模河川水力発電所に限定しており、また、バイオマスエネルギープロジェクトの場合は、持続可能な原料と廃棄物に限定しています。サステナビリティクスは、これはフレームワークを向上させると考えます。
 - エネルギー効率化プロジェクトに関して、サステナビリティクスは、エネルギー効率改善のための最低閾値を設定することがマーケットスタンダードであると考えており、従ってサステナビリティクスは、SMFG／SMBC に対して、フレームワークをさらに向上させるため、具体的なエネルギー効率改善目標を設定することを推奨します。
 - 新たな建物の建設又は既存の建物の改築に対するグリーンビルディング適格基準は、第三者認証基準である LEED、BREEAM、CASBEE に基づいており、その中の上位第 2 レベルの認証水準に焦点を当てています（評価については参考資料 1 をご覧ください）。サステナビリティクスは、LEED、BREEAM、CASBEE の上位 2 レベルの認証を取得した不動産を対象にしている点はマーケット・ベスト・プラクティスに合致していると考えます。
- プロジェクトの評価及び選定のプロセス
 - 適格プロジェクトは、SMBC のストラクチャード・ファイナンス営業部が適格クライテリアに基づいて評価、選定し、決定は SMFG のコーポレートトレジャリー室と SMBC の市場営業統括部が行います。これはマーケット・スタンダードに合致していると考えます。
- 調達資金の管理
 - グリーンボンドで調達された資金は、調達資金額が SMFG／SMBC の適格グリーンプロジェクト・クライテリアを満たした資産への充当金額と同額であることを確認する社内管理システムを通じて追跡管理されます。これはマーケット・スタンダードに合致していると考えます。
- レポーティング
 - SMFG／SMBC は自社のウェブサイト上で、調達資金の充当状況、融資されたプロジェクトの詳細、融資残高、融資の実行日及び融資の満期日などの情報を、毎年レポーティングすることを約束しています。加えて、SMFG／SMBC は、調達資金が適格プロジェクト又は適格金融商品に投資されていることを確認する経営陣のアサーションを受ける予定です。サステナビリティクスは、経営陣のアサーションを受けることはマーケット・ベスト・プラクティスだと考えます。
 - インパクト・レポーティングには CO₂ 排出量(t 換算)やエネルギー消費の削減量(kwh)、廃棄物のリサイクル量(t)の環境に対するインパクトが含まれ、これはマーケット・スタンダードに合致しています。

グリーンボンド原則 2018 への適合性

サステナビリティクスは、発行体のグリーンボンドがグリーンボンド原則 2018 の 4 つの要件に適合していると判断しています。詳細については、グリーンボンド／グリーンボンドプログラム外部機関レビューフォーム（参考資料 2）をご覧ください。

日本のグリーンボンドガイドライン 2017 年版に適合

サステナリティクスは、SMFG/SMBC のグリーンボンドガイドラインが ICMA グリーンボンド原則に適合しているとの意見を表明します。さらに、日本のグリーンボンドガイドライン 2017 年版では、信頼できるグリーンボンドを発行するために発行体が「すべき」項目を示すと共に、「望ましい」項目についても明確にしていますが、サステナリティクスは、SMFG/SMBC のグリーンボンドフレームワークと日本のグリーンボンドガイドラインで規定された要件の適合性も評価し、適合していると判断しています。

ICMA グリーンボンド原則 (GBP) と日本のグリーンボンドガイドライン 2017 年版 ⁵	GBP 及び日本のグリーンボンドガイドラインとの適合性	日本のグリーンボンドガイドライン 2017 年版との適合性についてのサステナリティクスのコメント ⁶
1. 調達資金の使途	適合	SMFG/SMBC グリーンボンドフレームワークの適格プロジェクトカテゴリー（再生可能エネルギー、エネルギー効率、省エネルギーのグリーンビルディング、クリーンな運輸、汚染の防止と管理）は、明確に詳細まで規定されており、明確な環境改善効果をもたらすものとして日本のグリーンボンドガイドラインにも認められています。また、SMFG/SMBC は適格プロジェクトに伴う環境・社会リスク（潜在的なマイナスの影響）を特定し、エクエーター原則の適用によっていかに当該リスクを管理するかを説明しています。
2. プロジェクトの評価及び選定のプロセス	適合	SMFG/SMBC のグリーンボンドフレームワークは、日本のグリーンボンドガイドラインが義務付けている以下についての情報を十分に記述しています。1) 環境面での持続可能性に関する目標（本文書では「環境目標」）、2) グリーンプロジェクトの評価選定のための「クライテリア」（本文書では「適格及び除外クライテリア」と「プロジェクト選定における適格クライテリアの適用」）、3) 適格グリーンプロジェクトの評価選定プロセス（本文書では「環境リスク、社会リスク低減のためのプロセス」と「プロジェクト選定における適格クライテリアの適用」）。
3. 調達資金の管理	適合	SMFG/SMBC のグリーンボンドフレームワークは、SMFG/SMBC が以下の手段によって調達資金を管理すると明記しています。1) SMFG 内部のシステムを基に全適格グリーンプロジェクトへの融資にかかるリストを管理する、2) 調達資金の充当分、未充当分の金額を記録し（未充当分は短期金融商品に投資される）、グリーンボンドの調達資金額と一致させる、3) 調達資金の追跡管理を確実に行う。これら

⁵環境省「グリーンボンドガイドライン 2017 年版」は、http://www.env.go.jp/policy/greenbond/gb/greenbond_guideline2017.pdf

⁶国際資本市場協会（「ICMA」）のグリーンボンド原則（GBP）への適合性に関する詳細なコメントについては参考資料を参照ください。

		の内容は、いずれも日本のグリーンボンドガイドラインに沿った内容であり、SMFG/SMBC はこれをグリーンボンド投資家に説明しています。
4. レポーティング	適合	SMFG/SMBC のグリーンボンドフレームワークは、日本のグリーンボンドガイドラインが義務付けている 5 種類の情報、すなわち、充当を受けたプロジェクトのリスト、各プロジェクトの簡単な概要、充当額、環境改善効果、未充当調達資金についての情報を、年 1 回開示すると明記しています。

セクション 2：発行体のサステナビリティ実績

フレームワークによる発行体のサステナビリティへの貢献

SMFG と SMBC を含む SMBC グループは、CSR が事業戦略の基礎であると述べています⁷。SMBC グループは CSR 戦略を、CSR ポリシーと「環境」「次世代」「コミュニティ」の 3 つの重点課題に基づき管理しています。また、環境に関するビジョン・方針とともに、中核事業の活動を通じて地球環境の保全・向上を目指す主要環境イニシアチブを策定しています⁸。SMFG/SMBC のグリーンボンドフレームワークに記載の通り、同グループの環境方針は 8 つの柱で構成されています。

SMBC グループの方針は、環境に配慮した商品・サービスの提供に取り組むと述べていることから、事業活動にも統合されています。一例として、主要グループ会社の 1 社である SMBC は、環境アセスメントローンや再生可能エネルギー事業に対するプロジェクトファイナンスなど、環境をテーマとした金融商品やサービスを提供しています。サステナビリティは、環境にインパクトを与える商品の提供や環境改善効果の認められるプロジェクトに係るファイナンスに関して、定量的・時間的目標を追加することで SMFG/SMBC の事業活動へのグループ環境方針の統合は強化されるとの意見を表明します。

全体として、サステナビリティは、SMFG/SMBC は事業活動に統合された強力な環境方針を有しており、SMFG/SMBC のグリーンボンドフレームワークが環境方針の第 1 の柱である「環境に配慮した商品、情報、サービスの推進」に貢献しているとの意見を表明します。

プロジェクトに伴う環境及び社会リスクに対処する十分な体制整備

サステナビリティは、SMFG/SMBC は総じて、SMFG グリーンボンドプロジェクトに伴う主要な環境・社会リスクを管理する十分な体制整備ができているとの意見を表明します。プロジェクトに伴う主な環境・社会リスクとして重要なものには、存続可能な森林や食品を利用したバイオマス発電、建設・開発プロジェクトにおける労働者の安全と汚染管理などがあります。SMFG/SMBC のリスク管理の強みとして以下の点が挙げられます。

- SMFG/SMBC はサステナビリティに対して、前述の森林破壊や食糧との競合のリスクを低減する為、エネルギー生産に使用するバイオマスを持続可能な原料や廃棄物に制限する旨を明言しています。
- プロジェクトファイナンスとプロジェクト関連法人向けローンを含む 4 つの金融商品に適用されるエクエーター原則は、世界の金融機関から広く信頼できる基準であると認められ、利用されています。SMFG はエクエーター原則に基づいて関連プロジェクトの環境・社会リスクを評価することを約束しており、これは、環境・社会リスク低減に貢献する堅牢なシステムを示しています。
- 国際環境室は、関連するプロジェクトの環境・社会リスクを評価し、エクエーター原則に従ってプロジェクトを分類します。融資契約のコベナントにはレビューの結果に基づく環境・社会面の検討事項が含まれ、エクエーター原則の遵守は融資期間中にモニタリングされます。

⁷SMBC グループにおける CSR <https://www.smfg.co.jp/responsibility/smfgcsr/>

⁸環境ビジネスの推進 <https://www.smfg.co.jp/responsibility/issue/environment/business/>

セクション 3：調達資金の用途によるインパクト

調達資金を充当する 5 つのカテゴリーは全て、グリーンボンド原則によって環境改善効果があると認識されています。サステナビリティクスは、日本の状況に特に関わりの深いインパクトのある 2 つの領域に焦点を当てています。

日本における再生可能エネルギー、エネルギー効率、クリーンな輸送の影響

日本のエネルギー自給率は OECD 諸国と比較すると特に低く⁹、エネルギーの約 84%を輸入しています¹⁰。2011 年の東日本大震災以前の日本はエネルギー源として原子力発電に大きく依存し、原子力発電は 1973 年以降、国家戦略上の優先事項となってきました¹¹。しかし、福島第 1 原子力発電所の事故とその後の住民の懸念を受けた全国的な原子力発電所の運転停止を受け、エネルギーミックスと戦略計画の修正を迫られました。新たな戦略計画では、風力、太陽光、地熱、バイオマス、水力など再生可能エネルギーの目標比率が 2030 年までに 22~24%に設定され、大震災前の 10%から大幅に引き上げられました。日本の低いエネルギー自給率と再生可能エネルギーの推進を通じて地球温暖化に対処する国家戦略を踏まえれば、再生可能エネルギー需要は増加し、再生可能エネルギー施設の建設・運営に対する融資ニーズが高まることは明らかです。戦略計画では、エネルギーミックスの達成には、2030 年までに原油換算 5,030 万 kl 程度のエネルギー効率の改善が必要だとしています¹²。

さらに、2016 年のデータによると、運輸部門は日本の CO₂ 排出量の 18.8%を占めています¹³。日本は、2013 年から 2016 年にかけて運輸部門の温室効果ガス排出量を 3.8%削減しましたが、¹⁴低炭素経済への移行を支援し、温室効果ガス削減目標を達成するためには、クリーンな輸送プロジェクトへのさらなる投資が必要です。

気候変動緩和に向けた、グリーン不動産の日本での重要性

国土交通省によると¹⁵、東日本大震災以降、エネルギー需要の充足は一段と困難になっています。また、建築物等のエネルギー消費量は大幅に増加しており、建築物は日本のエネルギー消費量の 3 分の 1 を占めます¹⁶。建築物によるエネルギー需要と消費の増加を受けて、政府は建築物のエネルギー効率に重点を置く一方、2017 年に「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律」（建築物省エネ法）を改正し、一定規模の建築物はエネルギー効率基準を満たすこと、また、充足できない場合には管轄の行政機関に通知することが義務付けられました¹⁷。また、パリ協定の CO₂ 目標へのコミットメント達成を目指す日本の計画の一環として、政府は、CASBEE 等のグリーンビル認証制度の拡大など他のイニシアチブと並んで、同法が定めるエネルギー効率基準の遵守を推進しています¹⁸。このような流れを考えると、エネルギーの大量消費と国家戦略による優先順位付けを反映して、日本では建築物のエネルギー効率向上に向けた明確なニーズが存在します。

汚染防止および管理の重要性

日本は工業化と人口増加によって生じた廃棄物問題を解決するため、何度か規制が変更され、その結果、先進的な廃棄物管理システムを保有するに至りました¹⁹。廃棄物量は 2000 年から 2016 年にかけて 21%減少しました²⁰。日本では、焼却が主要な廃棄物処理方法ですが、²¹リサイクル率は 2016 年の時点で 20.3%となっています²²。

以上から、サステナビリティクスは、日本における再生可能エネルギーやエネルギー効率、クリーンな輸送、グリーンビルディング、汚染防止及び管理に関するプロジェクト向け融資のニーズの充足に向け

⁹経済産業省資源エネルギー庁「日本のエネルギー」http://www.enecho.meti.go.jp/about/pamphlet/pdf/energy_in_japan2016.pdf

¹⁰世界原子力協会「日本の原子力発電」（英文）<http://www.world-nuclear.org/information-library/country-profiles/countries-g-n/japan-nuclear-power.aspx>

¹¹世界原子力協会「日本の原子力発電」（英文）<http://www.world-nuclear.org/information-library/country-profiles/countries-g-n/japan-nuclear-power.aspx>

¹²経済産業省資源エネルギー庁「エネルギー革新戦略を踏まえた 新たな省エネ政策の方向性」

http://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/shoene_shinene/sho_energy/pdf/017_02_00.pdf

¹³環境省・国立環境研究所「2016 年度の温室効果ガス排出量（速報値）について」<http://www.env.go.jp/press/files/jp/107902.pdf>

¹⁴世界の温室効果ガス排出量データ（英文）<https://www.epa.gov/ghgemissions/global-greenhouse-gas-emissions-data>

¹⁵国土交通省「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律（建築物省エネ法）の概要」<http://www.mlit.go.jp/common/001178846.pdf>

¹⁶国土交通省「建築物省エネ法の概要」<http://www.mlit.go.jp/common/001204678.pdf>

¹⁷国土交通省「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律（建築物省エネ法）の概要」<https://www.mlit.go.jp/common/001134876.pdf>

¹⁸環境省「地球温暖化対策計画」<https://www.env.go.jp/press/files/jp/102816.pdf>

¹⁹環境省「日本の廃棄物処理の歴史と現状」（2014 年 4 月）https://www.env.go.jp/recycle/circul/venous_industry/ja/history.pdf

²⁰環境省「日本の廃棄物処理 平成 12 年度版」http://www.env.go.jp/recycle/waste_tech/ippan/h12/index.html

環境省「日本の廃棄物処理 平成 28 年度版」http://www.env.go.jp/recycle/waste_tech/ippan/h28/data/disposal.pdf

²¹環境省「日本の廃棄物処理 平成 28 年度版」http://www.env.go.jp/recycle/waste_tech/ippan/h28/data/disposal.pdf

²²環境省「日本の廃棄物処理 平成 28 年度版」http://www.env.go.jp/recycle/waste_tech/ippan/h28/data/disposal.pdf

三井住友フィナンシャルグループ・グリーンボンド

た SMFG/SMBC によるグリーンボンドの貢献は、環境に対して好影響をもたらすとの意見を表明します。

「持続可能な開発目標」(SDGs) との合致/への貢献

「持続可能な開発目標」(SDGs) は 2015 年 9 月に策定され、2030 年までに持続可能な開発を実現する政治的目標となっています。SMFG のグリーンボンドは以下の SDG 目標を推進するものです。

調達資金の用途のカテゴリー	SDG	SDG ターゲット
再生可能エネルギー	7.安価でクリーンなエネルギー	7.2 2030 年までに世界全体のエネルギー構成における再生可能エネルギーの比率を大幅に高める
エネルギー効率	7.安価でクリーンなエネルギー	7.3 2030 年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる
グリーンビルディング	9. 産業と技術革新の基盤	9.4 2030 年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。すべての国々は各国の能力に応じた取組を行う
クリーンな運輸	11.住み続けられるまちづくり	11.2 2030 年までに、脆弱な立場にある人々、女性、子供、障害者及び高齢者のニーズに特に配慮し、特に公共交通機関の拡充を通じた交通の安全性改善により、全ての人々に、安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する
汚染の防止と管理	3.すべての年齢層における健康な生活の確保と幸福の推進	3.9 2030 年までに、有害化学物質や空気・水・土壌の汚染による死者・病者の数を大幅に減らす

結論

SMFG/SMBC のグリーンボンドフレームワークには透明性があり、調達資金の用途とグリーンボンド投資で期待される成果を明確に提示しています。再生可能エネルギー、エネルギー効率、グリーンビルディング、クリーンな運輸、汚染の防止と管理は、明確な環境改善効果をもたらす適格グリーンプロジェクトカテゴリーとして、グリーンボンド原則と日本のグリーンボンドガイドライン 2017 年版に含まれています。さらに SMFG のプロジェクトの選定プロセスは、エクエーター原則など外部の基準を基盤としています。これにより、グリーンボンドの調達資金の充当を受けるプロジェクトが、環境・社会的影響が最小限又は限定的なものとなることを担保しています。サステナリティクスは、SMFG グリーンボンドはグリーンボンド原則 2018 の 4 つの要件及び日本のグリーンボンドガイドライン 2017 年版に合致しているとの意見を表明します。

参考資料

参考資料 1: グリーンビルディング認証スキームの概要と比較



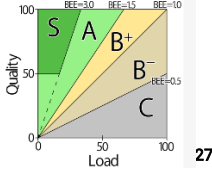
	LEED ²³	BREEAM ²⁴	CASBEE 不動産評価 認証ランク ²⁵
背景	Leadership in Energy and Environmental Design は、世界中で使用されている居住用及び商業用不動産向けの米国の認証制度です。LEED は非営利団体である米国グリーンビルディング協議会 (USGBC) によって開発され、建築物の設計、建設、保守及び運用を評価しています。	BREEAM (英国建築研究所建築物性能評価制度) は当初、英国の建築研究所 (BRE) によって 1990 年に発行され、新築、改築、増築に使用されています。	CASBEE 不動産評価認証 (建築環境総合性能評価システム: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency) は、日本におけるグリーンビルディング管理制度であり、建築物の環境性能や建築環境を評価し格付する手法です。CASBEE 不動産評価認証には、評価対象のスケールに応じた、「住宅系」、「建築系」、「街区系」及び「都市系」の 4 つの評価ツールがあります。
認証レベル	Certified Silver Gold Platinum	Pass Good Very Good Excellent Outstanding	C ランク (劣る) B-ランク (やや劣る) B+ランク (良い) A ランク (大変良い) S ランク (素晴らしい)
評価領域: 環境プロジェクト・マネジメント		環境評価カテゴリーの「マネジメント」は、プロジェクト・マネジメント、導入、環境外乱が最小限の作業現場、利害関係者の関与など様々な側面に対応しています。	CASBEE 不動産評価認証は、不動産の内側と外側という 2 つの主要ファクターを評価し、各ファクターは、Q (建築物の環境品質 Quality)、L (建築物の環境負荷 Load) の両側面から評価されます。
評価領域: 建築物の環境性能	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー及び大気 持続可能な敷地 立地と交通 材料と資源 水の効率性 室内環境の質 デザインの革新性 地域別重み付け 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー 土地利用とエコロジー 汚染 交通 材料 水 廃棄物 健康と福利の革新性 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー消費 (Energy Efficiency) 資源循環 (Resource efficiency) 地域環境 (Local environment) 室内環境 (Indoor environment)
要件	必須条件 (認証レベルとは無関係) を満たすとともに、評価項目に関連したポイントを取得	認証レベルに応じた必須条件を満たすとともに、評価項目に関連したポイントを取得	スコアリングによるパフォーマンス評価 CASBEE は、評価指標として BEE (Built Environment Efficiency) を用いています。BEE

²³ LEED 認証スキームに関する詳細は <https://new.usgbc.org/leed> (英文) を参照してください。

²⁴ BREEAM 認証スキームに関する詳細は <https://www.breeam.com/> (英文) を参照してください。

²⁵ 建築環境総合性能評価システム (CASBEE), BASBEE <http://www.ibec.or.jp/CASBEE/index.htm>

三井住友フィナンシャルグループ・グリーンボンド

	<p>上記のポイントの合計に応じて LEED 認証レベルを取得することになります。</p> <p>LEED には異なるいくつかのレーティング・システムがあります。各格付レーティング・システムは、特定の分野（新築、大規模リフォーム、コア及びシェル開発、学校／小売／医療施設の新築及び大規模改築、既存不動産の運営及び保守）に適用できるように設計されています。</p>	<p>取得したポイントは項目ごとに重み付けされ²⁶、獲得した総合スコア（パーセンテージで表されます）に基づいて BREEAM 認証レベルの証明書が与えられます。BREEAM の項目の大部分には柔軟性があり、クライアントは BREEAM のパフォーマンススコアの作成に当たり、遵守すべき項目を選択することができます。</p> <p>BREEAM には 2 つの段階と監査レポートがあります。評価基準が異なる「BREEAM 設計段階（BREEAM Design Stage）」と「建設後段階（Post Construction Stage）」です。</p>	<p>は、Q（Quality）を分子、L を分母として算出される指標です。Q と L は 4 つの主要分野を分類し再構成して算定されます。</p> <p>建築物は、BEE の値が増加に応じて C ランク（劣っている）から S（素晴らしい）のランク判定を受けます。</p> <p>建築物は、地方自治体から認可を受けるために CASBEE の認証制度の評価書を取得する必要があり、当該評価書は地方自治体によって評価を受けます。</p>
<p>パフォーマンス表示</p>			
<p>定性的考察</p>	<p>世界的に認知され適用されています。</p>	<p>世界的に認知され適用されています。</p>	<p>日本では、多くの地方自治体が、建築許可審査の際に CASBEE 不動産評価認証の評価書の提出を義務付けています（他の同様のツールと比較して）。</p>

²⁶ BREEAMの重み付け：マネジメント12%、健康と福利15%、エネルギー19%、交通8%、水6%、材料12.5%、廃棄物7.5%、土地利用とエコロジー10%、汚染10%、革新性10%。従って、エネルギーの項目で取得した1点は、集計段階で汚染の項目で取得した1点の2倍の価値を持つこととなります。

²⁷ 評価の仕組みと環境性能効率（BEE） http://www.ibec.or.jp/CASBEE/CASBEE_outline/method.html

参考資料 2: グリーンボンド／グリーンボンドプログラム外部機関レビューフォーム セクション 1. 基本情報

発行体の名称	三井住友フィナンシャル・グループ(SMFG) 三井住友銀行 (SMBC)
グリーンボンド ISIN コード／グリーンボンド発行体フレームワークの名称 (該当する場合)	三井住友フィナンシャル・グループ／三井住友銀行のグリーンボンドフレームワーク
レビュー機関の名称	サステイナリティクス
本フォームの記入完了日	2018 年 11 月 21 日
レビューの発行日: [本レポートが過去のレビューの更新版である場合、その旨を記載し、参照すべき元文書をご記入下さい]	2018 年 11 月 22 日

セクション 2. レビューの概要

レビューの範囲

レビューの範囲では、以下の項目を適宜使用／採用しています。

本レビューでは次の要素を評価し、グリーンボンド原則 (GBP) との整合性を確認しました。

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の用途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価及び選定のプロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポートティング |

レビュー機関の役割

- | | |
|--|---------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> コンサルティング (セカンドパーティ・オピニオンを含む) | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証 | <input type="checkbox"/> レーティング |
| <input type="checkbox"/> その他 (具体的に記入して下さい) | |

注: レビューが複数ある場合やレビュー機関が異なる場合は、レビューごとに別々のフォームを使用して下さい。

レビューの要約及び／又はレビュー全文へのリンク (該当する場合)

上記のグリーンボンドフレームワークの概要とセカンドパーティ・オピニオン文書を参照願います。

セクション 3. レビューの詳細

三井住友フィナンシャルグループ・グリーンボンド

レビュー機関は、以下の情報をできるだけ詳細に提供し、コメントセクションを使用してレビューの範囲を説明することが推奨されています。

1. 調達資金の用途

セクションについての総合的コメント(該当する場合)

資金使用の対象となる適格カテゴリー（再生可能エネルギー、クリーンな運輸、エネルギー効率、グリーンビルディング、汚染の防止と管理）は、グリーンボンド原則に合致しています。サステナリティクスは、クリーンエネルギープロジェクトが環境改善効果をもたらす、国際連合が定める持続可能な開発目標を推進するものと考えます。

資金の用途のカテゴリー（分類は GBP に基づく）

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 再生可能エネルギー | <input checked="" type="checkbox"/> 省エネルギー |
| <input checked="" type="checkbox"/> 汚染の防止と管理 | <input type="checkbox"/> 自然資源の持続可能な管理と土地の利用 |
| <input type="checkbox"/> 生物多様性保全（陸上及び海洋） | <input checked="" type="checkbox"/> クリーンな輸送 |
| <input type="checkbox"/> 持続可能な水資源管理 | <input type="checkbox"/> 気候変動への適応 |
| <input type="checkbox"/> 環境に配慮した製品、製造技術・工程 | <input checked="" type="checkbox"/> グリーンビルディング |
| <input type="checkbox"/> 発行の時点では確認されていないが、将来的に GBP のカテゴリーに適合するか、又はまだ GBP のカテゴリーになっていないその他の適格分野に適合すると現時点で予想される | <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入して下さい） |

GBP のカテゴリーにない場合は、環境分類を記入して下さい（可能な場合）

2. プロジェクトの評価及び選定のプロセス

セクションについての総合的なコメント（該当する場合）

SMFG のコーポレートトレジャリー室と SMBC の市場営業統括部は、SMFG のサステナビリティ推進室と協働し、環境分野で豊富な経験と知識を有するグループのシンクタンク子会社である日本総合研究所（JRI）のサポートを得て、上記のプロジェクトカテゴリー（a）から（e）を含む適格グリーンプロジェクトのクライテリアを策定しました。SMFG がグリーンボンドの発行体となった場合、SMFG のコーポレートトレジャリー室がグリーンボンドの発行による調達資金を SMBC に対してグループ内ローンとして融資するプロセスを管理します。SMBC のストラクチャード・ファイナンス営業部は、クライテリアを満たすプロジェクトを選定し、SMFG のコーポレートトレジャリー室と SMBC の市場営業統括部がグリーンボンドの適格プロジェクトを決定します。グリーンボンドで調達された資金は、選定された適格プロジェクトに充当されます。

サステナリティクスは、上記内容がマーケット・プラクティスに合致しているとの意見を表明します。

評価・選定

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 発行体のサステナビリティ目標は、環境的改善効果をもたらす | <input checked="" type="checkbox"/> ドキュメント化されたプロセスにより、プロジェクトが適格カテゴリーの範囲に適合していることが判断される |
|--|--|

三井住友フィナンシャルグループ・グリーンボンド

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> グリーンボンドによる調達資金に適格なプロジェクトのクライテリアが定義されており、その透明性が担保されている | <input type="checkbox"/> ドキュメント化されたプロセスにより、プロジェクトに関連した潜在的 ESG リスクを特定及び管理していることが判断される |
| <input type="checkbox"/> プロジェクトの評価・選定に関するクライテリアのサマリーが公表されている | <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入して下さい） |

責任に関する情報及び説明責任に関する情報

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 評価／選定のクライテリアについては外部機関による助言又は検証が必要 | <input checked="" type="checkbox"/> 組織内での評価 |
| <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入して下さい） | |

3. 資金管理

セクションについての総合的コメント（該当する場合）

SMBC グループは、グリーンボンドからの調達資金がグループ内ローンを通じて SMBC に移管され、さらに、上記で定義された適格グリーンプロジェクトに充当されることをモニタリングし確実なものにするためのシステムを確立・実施しています。

グリーンボンドによる調達資金と同額が、SMFG と SMBC の適格グリーンプロジェクトのクライテリアを満たす資産に充当されたことが、記録に示されます。調達した資金の全額が適格グリーンプロジェクトに充当されるまで、未充当資金はオーバーナイト取引や他の短期金融商品に投資される予定です。売却、繰上返済、分割償還又はその他の理由により不適格となったプロジェクトに充当されていたグリーンボンドによる調達資金は、他の適格グリーンプロジェクトに再度充当するものとします。

また、グリーンボンドの元本と利息の支払いは SMBC グループの一般資金から行われ、適格グリーンプロジェクトのパフォーマンスに直接左右されることはありません。

サステイナリティクスは、上記内容がマーケット・プラクティスに合致しているとの意見を表明します。

調達資金の追跡管理

- | |
|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 発行体はグリーンボンドの調達資金を体系的に区別又は追跡管理している |
| <input checked="" type="checkbox"/> 未充当の資金の運用に使用する予定の一時的な投資手段の種類が開示されている |
| <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入して下さい） |

その他の情報開示

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 将来の投資にのみ充当 | <input checked="" type="checkbox"/> 現在と将来の投資に充当 |
| <input type="checkbox"/> 個別の支出に充当 | <input type="checkbox"/> 支出ポートフォリオに充当 |
| <input type="checkbox"/> 未充当資金のポートフォリオを開示 | <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入して下さい） |

4. レポーティング

セクションについての総合的コメント（該当する場合）

資金充当状況レポート

関連するグリーンボンドが残存する間、SMFG と SMBC はグリーンボンドによる調達資金の充当状況に関する情報を専用ウェブサイトに公表し、閲覧可能な状態に維持します。当該情報は全額が充当されるまで少なくとも年 1 回、また、新たな状況が発生した場合には適時更新されます。この情報には以下の内容を含みます。

- i. 融資を受けた適格グリーンプロジェクト、融資残高及び融資の実行日などの詳細を含む、適格グリーンプロジェクトの調達資金の充当状況、及び
- ii. グリーンボンドによる調達資金が、条件を満たす適格グリーンプロジェクト又はオーバーナイト取引やその他の短期金融商品に投資されていることを示す経営陣のアサーション

インパクト・レポート

SMFG と SMBC は、融資を行った適格グリーンプロジェクトの環境に対するインパクトに関する情報と評価を専用ウェブサイトに年 1 回掲載します。SMFG/SMBC は、CO₂ 排出量(t 換算)やエネルギー消費の削減量(kwh)、廃棄物のリサイクル量等の環境影響指標インパクトのレポートを約束しています。融資を行った適格グリーンプロジェクトの環境に対するインパクトは、レポートの際に全体で集計・計算されます。これらの環境に対するインパクトは JRI のサポートを得て計算されます。

サステナビリティクスは、資金充当状況レポートの一環として経営陣のアサーションを受けることはマーケット・プラクティスに合致するとの意見を表明します。インパクト・レポートに関しては、SMFG/と SMBC は CO₂ 排出量(t 換算)やエネルギー消費の削減量(kwh)、廃棄物のリサイクル量(t)等の環境影響指標インパクトのレポートを約束しており、これはマーケット・スタンダードに合致していると考えます。

資金使途のレポート

- プロジェクト単位
- プロジェクト・ポートフォリオ単位
- 個々の債券の情報源へのリンク
- その他（具体的に記入して下さい）

報告される情報

- 充当額
- 投資額全体におけるグリーンボンドによる調達額の割合
- その他（具体的に記入して下さい）

頻度

- 毎年
- 半年毎
- その他（具体的に記入して下さい）

インパクト・レポート

- プロジェクト単位
- プロジェクト・ポートフォリオ単位
- 個々の債券の情報源へのリンク
- その他（具体的に記入して下さい）

頻度

- 毎年
- 半年毎
- その他（具体的に記入して下さい）

報告される情報（予想又は事後の報告）

三井住友フィナンシャルグループ・グリーンボンド

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 温室効果ガスの排出量／削減量 | <input type="checkbox"/> 消費エネルギーの削減量 |
| <input type="checkbox"/> 水消費量の削減 | <input checked="" type="checkbox"/> その他の ESG 指標（具体的に記入して下さい）：エネルギー消費の削減量(kwh)、廃棄物のリサイクル量(t) |

開示の方法

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 財務報告書に掲載 | <input type="checkbox"/> サステナビリティレポートに掲載 |
| <input type="checkbox"/> 臨時報告書に掲載 | <input checked="" type="checkbox"/> その他（具体的に記入して下さい）：ウェブサイト |
| <input type="checkbox"/> レポーティングは審査済み（「審査済み」の場合、どの部分が外部審査の対象かを明示して下さい） | |

参考情報へのリンク先の欄で報告書の名称と発行日を明記して下さい（該当する場合）

参考情報へのリンク先（例えば、レビュー機関の審査手法、実績、発行体の参考文献などへのリンク）

<http://www.smfg.co.jp/english/>
<https://www.env.go.jp/en/policy/economy/gb/summary2017.pdf>

参照可能なその他の外部審査（該当する場合）

提供レビューの種類

- | | |
|--|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> コンサルティング（セカンドパーティ・オピニオンを含む） | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証／監査 | <input type="checkbox"/> レーティング（格付け） |
| <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入して下さい）： | |

レビュー機関

発行日

グリーンボンド原則（GBP）が定義するレビュー機関の役割について

- i. コンサルタント・レビュー：発行体は、環境的な持続可能性、その他グリーンボンド発行におけるさまざまな面（発行体のグリーンボンドフレームワークの策定／レビューなど）について、定評ある専門知識を備えたコンサルタントや専門機関に助言を求めることができます。「セカンドパーティ・オピニオン」はこのカテゴリーに含まれます。
- ii. 検証：発行体は、発行するグリーンボンド、それに関連するグリーンボンドフレームワーク、または裏付けとなる資産について、資格要件を満たした当事者（監査人など）に独立した立場からの検証を受けることができます。以下の認証と異なり、検証では発行体で作成した内部基準や要件との整合性に焦点を当てることができます。裏付けとなる資産の環境的に持続可能な特性の評価も検証と呼び、外部のクライテリアを適用する場合があります。
- iii. 認証：発行体は、発行するグリーンボンド、それに関連するグリーンボンドフレームワーク、または調達資金の用途について、外部のグリーン評価基準に照らして認証を受けることができます。クライテリアは評価基準によって定義され、こうしたクライテリアとの整合性を、資格要件を満たした第三者機関／認証機関が確認します。
- iv. レーティング（格付け）：発行体は、発行するグリーンボンド、またはそれに関連するグリーンボンドフレームワークのレーティングを、資格要件を満たした第三者機関（専門的調査機関、格付機関など）から取得することができます。グリーンボンドのレーティングは通常、個別の債券やグリーンボンドフレームワーク／プログラムに適用されるもので、発行体の ESG レーティングとは区別されています。

免責事項

© Sustainalytics 2018.無断複写・複製・転載を禁ず。

このセカンドパーティ・オピニオン（「オピニオン」）に対する知的財産権はサステナリティクスのみ
に帰属します。本オピニオンのいかなる部分も、サステナリティクスが書面で明示的に同意しない
限り、複写・流布したり、他の情報と混合したり、派生物の作成に使用したり、何らかの形で提供し
たり、第三者に開示したり、出版したりすることはできません。また、本オピニオンの一部、又は本オ
ピニオンに電子的又は機械的に、あるいは複写機や録音を通じて何らかの形又は方法で記載された情報は、
本オピニオンと並行して策定されている「グリーンボンドフレームワーク」と無関係に公表することも
できません。

本オピニオンは、分析対象の債券が持続可能であり、責任を果たし、さらに特定の投資家ではなく投資
家全般が使用できるようにしているとみなされる理由を説明するために作成されました。従って、本オ
ピニオンは情報提供のみを目的としており、サステナリティクスは本オピニオンの内容に関するい
かなる形の責任も、本オピニオン又は本オピニオンで提供される情報の利用に起因する損害に関する責任
も、認めることはありません。

本オピニオンはクライアントから提供された情報に基づいて作成され、その情報は「そのまま」提供さ
れているため、サステナリティクスは本オピニオンに提示された情報の完全性、正確性及び最新性を
保証しておらず、誤差脱漏に対する責任を負うこともありません。第三者の名称への言及は、所有権を
適切に承認するためであり、係る所有者によるスポンサーシップ又は支援を裏付けるものはありません。

本オピニオンに記載されたいかなる内容も、明示黙示を問わず、投資可能な資産やポートフォリオへの
投資又は企業の参加の助言を表示・保証・表明・示唆するものとみなすことはできません。また、本オ
ピニオンに記載されたいかなる内容も、（適用可能な法域において定義されている）投資アドバイスと
みなしたり、経済的パフォーマンスや債券の信用力の評価と解釈したり、調達資金の効果的な充当に焦
点を当てたものと解釈したりすることはできません。

クライアントは自らの行動の適法性・実行・監視について、認証の取得や確実な実施の全責任を負いま
す。

英語版と翻訳版との間に不一致がある場合、英語版が優先されます。

サステナリティクスについて

サステナリティクスは、環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査、格付け及び分析を行う独立系機関であり、責任投資（RI）戦略の策定と実施について世界中の投資家をサポートしています。サステナリティクスは世界各地に 13 のオフィスを展開し、機関投資家のパートナーとして、ESG に関する情報や調査結果を投資プロセスに組み込むサポートを提供しています。今日、30 か国において多国籍企業、金融機関及び政府機関に至る様々な発行体が弊社にグリーンボンドやサステナビリティボンドに関するセカンドパーティ・オピニオンを依頼しています。サステナリティクスは Climate Bonds Standard Board により検証機関としての認証を受け、フレームワークの策定や検証において様々なステークホルダーを支援しています。また、サステナリティクスは Global Capital 社により「2017 年もっとも印象的なセカンドパーティ・オピニオン機関」として表彰を受けました。2018 年には、Climate Bonds Initiative 団体及び Environmental Finance 誌によって「最大の外部レビュー機関」に指定されました。サステナリティクスは、2018 年に、日本のグリーンボンド市場の成長に対する弊社の貢献に対し、一般社団法人環境金融研究機構から「サステナブルファイナンスアワード特別賞」を受賞しております。

詳しくは、www.sustainalytics.com をご参照、又は

info@sustainalytics.com にご連絡下さい

